



ハメ ドウースト



みんな ともだち！



Tehran
Japanese
School

学校便り「ハメドウースト」
2025年度 第2号
2025年5月29日発行

愛する心持った人の話は魅力的

テヘラン日本人学校 校長 西田隆之

先日、『ペルシア文化が彩る魅惑の国イラン』の著者である杉森健一さんとお会いする機会がありました。杉森さんは、約10年前、世界を旅する途中でイランに立ち寄り、現地の人々のあたたかさや豊かな伝統文化に強く魅了されたそうです。その出会いをきっかけに、イランに深い愛着を持ち続け、現在では雑貨の販売やインスタグラムなどを通して、イランの魅力を日本国内に発信しておられます。そしてこのたび、その活動が評価され、在外公館長賞を受賞されました。まさに、名実ともに「イランのインフルエンサー」として活躍されている方です。

杉森さんのお話から、何よりも心に残ったのは、「心から愛しているものについて語る言葉には、自然と人を惹きつける力がある」ということでした。お話の随所からは、イランへの深い敬意と愛情があふれており、その言葉には一切の飾り気がなく、説得力とあたたかさに満ちていました。ご自身の体験をユーモアを交えて語られつつも、現地の文化や人々に対する深い理解と尊重が感じられ、聞いているこちらの心まであたたかくなりました。

また、杉森さんが今年11月に再びイランを訪問される予定であると同じ、私はすぐに「その際はぜひ、子どもたちにお話をさせていただけないでしょうか」とお願いしました。イランという国を心から愛し、その魅力を真摯に語る大人の姿に触れることは、きっと子どもたちにとって貴重な経験となるはずです。

私たち教職員や保護者は、日々、子どもたちの成長を願い、さまざまなことを語りかけます。「どうすれば子どもたちの心に届くか」「何を伝えるべきか」と悩みながら、それぞれの立場から語り続けています。そのような中で、杉森さんのお話は、私たちに大切な問いを投げかけてくれたように思います。「私たちの語りに、愛情と信念がこもっているだろうか」「心から語ることの力を、忘れていないだろうか」と。

杉森さんとの出会いは、「こんなふうに、自分の言葉で、誰かの心に響く話ができる人になりたい」と感じると同時に、日々子どもたちへの語りを見つめ直す良い機会となりました。

仲間と過ごす楽しい3日間

4年生以上の宿泊学習

5月20日から3日間、シーラズへ研修旅行に行きました。6人の児童生徒のうち2人は訪れたことのある場所でしたが、友だちと過ごし、寝食を共にする体験は、家族旅行とはまた違う特別な思い出になったことと思います。

写真

特に印象深かったのは、ザクロ農家の訪問です。農園を歩きながら実際に話を聞き、収穫の様子や自然の営みに触れることができました。また、手作りの家庭料理をごちそうになり、温かいもてなしに心も満たされました。忘れられない経験になったことでしょう。

「毎日が20日だったらいいのに」

低学年校外学習を実施

5月20日、低学年2名が、エラム動物園に行きました。動物を見つけては園内を駆け回り、ボートに乗って池を巡りました。子ども2名に対して引率教師2名、スタッフ3名という豪華な？サポート体制で、安全に実施することができました。

あまりにも楽しすぎて、「毎日が20日だったらいいのに！」とかわいい一言をつぶやいていました。

写真

写真

【6月行事予定】

- 1日 第1回英語検定1次
- 2日 朝会
- 9日 第57回開校記念日
- 11日 中学部定期考査（～12日）
- 19日 避難訓練（地震・引き渡し）
- 26日 運動会予行
- 27日 運動会
- 29日 振替休業日
- 30日 委員会活動

あっという間に5月も終了！いよいよ来月は、定期テストと運動会がやって来る！どちらも、少しずつ準備しておきましょう。